

【産 業】



生活文化創造の資源として  
見直される農林業。

総面積の実に五十六％を森林で覆われた本町では、養蚕機織の産地の一翼を担っていた時代から、山間に深くいだかれた農林業の町でした。現在でも農業においては、稲作、キュウリ、シイタケ、ナメコを中心に戦後、急速に生産量を



シイタケの収穫



桃の収穫



葉わさび畑

気通信機器製造、カメラ、メリヤス業などの地場産業に加え、コンクリート二次製品製造、ユニットバス製造工場を誘致、また森林資源の有効利用として粉炭の生産も行っています。一方、商店街の活性化を図るため、ひろせふれあい広場や街路灯を改修するなど、より便利で快適な商空間をつくることで、農・商・工のバランスのとれた職環境づくりにも力を注いでいます。

あげてきたモモやリンゴなどの果樹栽培、さらに特産の葉わさびなど、多岐にわたり、質量とも充実した生産をあげています。また、ほ場整備や果樹園の造成改良など生産基盤の整備も進められてきました。

地域に適した地場産業の育成。

しかし近年、若年層をはじめとする他市町村への就業率も増加しつつあります。

これを受けて、本町の雇用拡大を目的に電

月館らしさを追求した  
元氣な産業づくり。

そして、第二次振興計画がスタートしたことで、産業面にもこれまでのイメージに縛られない「月館らしさ」が徐々に現れはじめています。

都市と農村との交流を目的とした『つきだて

花工房』の建設が実現し、

遊休農地を活用した葉わさびをはじめとする特産物を活用した新製品の開

発、工業団地の造成など、まさにいま月館は、新しい時代に突入しようとしているのです。

